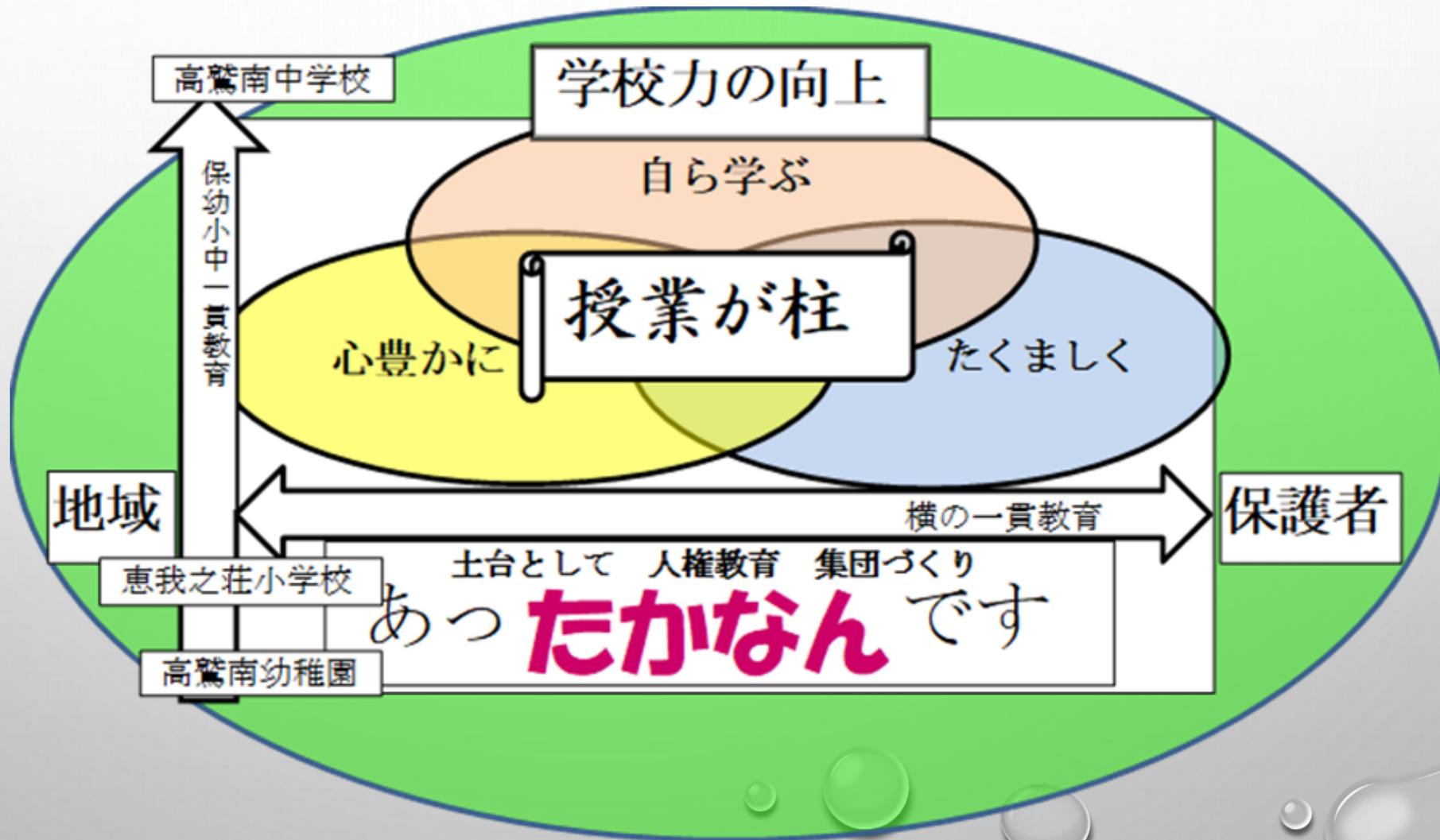


教育目標

自ら学び、心豊かでたくましい子どもの育成

めざす子ども像

- 1 相手の気持ちや立場に立って考え、行動する子
- 2 人の話をしっかりと聞き、考え、判断する子
- 3 自ら課題を見つけ、すすんで解決しようとする子



令和6年度の方針と重点課題(1)

○ 「あったかなん」をキャッチフレーズとし、人権教育・集団づくりを全学年で実践・推進

○ 新学習指導要領の確実な実施（ハイブリッド学習の推進）

キーワード1 「持続可能な社会の創り手」（学習指導要領・前文）

キーワード2 「主体的・対話的で深い学びの実現」（同上・総則）

キーワード3 「社会に開かれた教育課程」

○ 子どもの実態を踏まえた授業づくりと「自覚のある学び」の実現

○ 帯時間の指導重視

朝読書 算数タイム 掃除・給食指導など



令和6年度の方針と重点課題(2)

(1) 安心安全な学校づくりと学級づくりとたくましい体の育成 【子ども活動部】

- ・「特別な教科 道徳」で培った道徳性の実践の場としての特別活動
- ・食育推進
- ・体力向上

(2) 人権の尊重と望ましい学級集団づくり 【人権教育部】

- ・いじめ防止と適切な対応
- ・丁寧なことばがけ
- ・交流及び共同学習

(3) 心豊かな児童の育成 【生活安全部】

- ・安心安全な環境づくり(定期的な避難訓練と集団下校)
- ・あいさつ運動
- ・心とからだのアンケートとカウンセリング週間

(4) 自ら学ぶ力の育成 【学力保障部】

- ・授業研究推進(国語科・語彙力)
- ・情報活用能力(情報モラル含む)育成
- ・自らの学びを自覚し調整する力の育成

(5) 保幼小中一貫教育推進と保護者・地域との連携

- ・生活習慣確立運動(早寝早起き朝ごはん)
- ・あいさつ、チャイム着席、家庭学習、家読(うちどく)など各種運動(キャンペーン)
- ・中学校区合同授業研究

教育課程の編成及び実施について

(SDGsの視点を踏まえて)



(1) あらゆる教育活動を通して、「持続可能な社会の創り手」を育成する。目の前の子どもを踏まえ、子どもたちが生きる将来の社会を見据えた教育活動を推進する。「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」をバランスよく育成し、子どもたちに「生きる力」を育む。

(2) 人はことばを通して学習する。国語の時間をはじめ、すべての教育活動の中で言語活動を充実させる。振り返りなどの「書く場面」や「書いたこと」を「話し・聞きあう」場면을重視する。子どもはおとなの言葉から最も影響を受けることを自覚し、丁寧な言葉づかい(特にほめること)を心がける。

(3) 各教科及び総合的な学習の時間を計画するにあたっては、学校図書館並びに学習用端末(クロムブック)を発達段階に応じて計画的・効果的に活用する。教科横断的な学習活動を展開し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力の育成を図る。その際、SDGs(持続可能な開発目標)を踏まえるようにする。また、学習成果を発表する場を年度当初から想定する(例:羽曳野市学校図書館を使った調べる学習コンクール、統計グラフコンクール、人権週間ポスター(標語)など)。各教科等での学びの実践の場として特別活動・総合的な学習の時間を位置付ける。

(4) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。GIGAスクール構想下でのハイブリッド学習(ノートとタブレット、「個別最適な学び」と「協働的な学び」)の在り方を研究する。発達段階に応じて、学習用端末(クロムブック)を学習道具として計画的に活用する。その際は、「情報活用能力(情報モラルを含む)指導体系表(案)」を参考にする。なお、AI機能付き学習アプリを計画的・効果的に活用する。

(5) 教育課程の実施状況並びに1年間の研究成果を「高南小の取組み」として取りまとめるとともに、教育効果を「児童の意識に関するアンケート(児童アンケート)」等により検証する。